

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第25号
2021年 3月23日
編集・文責 吉成正士

「シンジさんとはなちゃんの話から人権について語り合う」・後編 1・2年生合同人権学習(3月17日)

「24号・前編」からの続きです。

■私は人権学習なんて習っても意味ないと思っていました。でも、今日話を聞いて、人権学習が役立つときもあるんだなと思いました。

部落差別は私には関係ないとずっと思ってきたけど、結構身近に部落差別で悩んでいる人がたくさんいるかもしれない。もし、その人と出会ったらどうしよう。これが、昨日までの私の考え。

私の今の考えは、部落の子がもし友達にいたなら、その子は他の人に言うのだけでも怖いから、受けとめて支えてあげないと！です。

他の人が言ったように、差別は一生なくなる。でも、少しずつ減らしていくことはできる。人にはその力がある。いくら差別を受けた人々の苦しみを分かろうとしても、受けた人にしか分からない苦しみがある。だから、学校で人権学習をして、差別をしないためにも、子どもに教えていくのが私は良いと思う。

差別は忘れちゃいけない。もし、こんなことがあったら、「差別されていた」「そっか！かわいそう」じゃなくて、「大丈夫!!ずっとそばにいるよ」の方が私は嬉しい。

1組KM

すなおに、純粋に、まっすぐに。

■今回、シンジさんとはなさん、そして吉成先生の話聞いて、部落差別について理解が深まりました。

シンジさんの「娘に同じ思いをさせたくない」という言葉は、胸が苦しくなりました。部落出身というだけで社会から見離され、結婚などの自由を縛られ、そして後の世代にも受け継がれる…。部落地域なんてものは単なる決めつけに過ぎないのに、差別してシンジさんのような人たちの人生を変えてしまうということが、僕は許せませんでした。

また、「無知が一番怖い」という話がありましたが、確かにそうだなと感じました。知識がないまま口走ってしまうと、知らず知らずのうちに相手の心を傷つけてしまうことがあるのは、何よりも怖いことだと思います。差別されてきた人たちが安心して生活できる社会をつくるため、部落差別などの差別をなくすために、人権学習は不可欠です。

これ以上部落の人が悲しまないようにするためには、まず人との関わりが重要だと思います。そして、差別があったという事実をなかったことにしてはいけないことも大切です。自分ができるとはあまりないかもしれませんが、人権学習から目をそらさず、学び、正しいことを伝えていくことが、今の自分にできることです。

2組NT

■私は今回のシンジさんとはなさん、吉成先生の話や、他の人の意見を聞いて、本当にいろいろな人がいるなと思いました。

シンジさんやはなさんは、部落の生まれだと言うのにすごく勇気がいると言っていました。それで、部落差別があるからそうやって勇気がないと言えないのかなと思いました。もし部落差別がない世界だったら、生まれた場所だけで苦しまずに生活できたのになと思います。

だからといって、今も続いている部落差別をなかったことにするのも、シンジさんの話を聞いて、「違うな」と思いました。シンジさんの言った、「なかったことにされると悲しい」という言葉が心に残りました。

意見の話し合いの中で、多くの人が「差別問題は勉強した方が良いのか、しない方が良いのか」を話し合っていて、私は勉強した方が良いと思いました。今まで差別されて、辛くて苦しかった人たちのことを学ばず、何も知らない無知のまま生きて、知らない間に差別するより、差別されてきた人たちのことを学んで、知識をつけて、差別は間違っていると堂々と言えるように生きる方が何倍も良いと思います。差別をしたって、どちらにも得はないのに、それを生まれた場所だけにするのは本当にあってはいけないことだなと改めて思える良い時間でした。

2組MR

そこに居るのに、居ないかのように扱われる寂しさ。

■人権学習をするべきかどうかについて私はするべきだと思いました。シンジさんが涙を流しながら親の親から続いていた差別をなかったことにしたくないというのを聞いて、その気持ちに添えてあげたいと思ったからです。実際私は小学生の頃に人をいじめてしまったことがあります。でもそれをいじめと知ったのも、悪いことだと反省したのも、人権学習をしてからです。

私はこの人権学習を通して優しい世界を築くため、助け合う力や自分一人一人が変わっていく力をつけ、行動を起こして、差別などをなくしていきたいです。

そして、今日学んだことを家に帰って家族に話そうと思います。無知であることが一番怖いとはなさんが言っていたので、家族と話してもっと知識を取り入れ、その知識を後世の人たちにも伝えていけたらと思っています。

3組IS

家族と話すことは、最もみんなにしてほしいこと。

■今回、はなちゃんとシンジさんの話を聞いて、やはり人権学習は必要だと思いました。なぜなら、人権学習をしないと、今まで差別されていた人の存在がナシにされている気がするからです。差別をされて辛い思いをしたのに、それをナシにされた上に、差別の新しい種類ができてしまうという最もだめな状態になってしまいます。

吉成先生が言ったように、人権学習は、人と人と通じ

させるものだと僕も思います。吉成先生はシンジさん、はなちゃんが好きだから人権学習をするとおっしゃっていました。そしてシンジさんは、泣きながら、好きにも種類はあるけれど、大切な人を守るためには人権学習が必要だと語ってくれました。僕はこの言葉に胸を打たれました。人と人が通じ、守り合うためにも、人権学習は必ず必要なので、これからも差別をはじめとした人権学習に取り組んでいきたいです。 3組YY

みなさんにとって守りたいものって、何ですか？

■2人の話を聞いて思ったことは、やっぱり人権学習は大切だなと思いました。シンジさんは社会人になって差別を受け、はなさんは結婚の時に反対されたりして、やっぱりそのつらさを教えてもらわないと正しい知識を得られないと思うし、それを教わっていなかったら差別は続くと思うので、人権学習は大切だなと思いました。

あることをないとされるのはとても辛いことだなと思いました。人権学習が必要ないと言っている人もいたけど、私は、まだ差別を受けていない人からしたら、それは楽かもしれないけれど、差別を受けた人からしたらとても辛いし、後世に伝えられなくて悲しい、悔しいと思うと思います。

私は河見先生が言ったことがものすごく心にささりました。私もポロツと言ってしまったことで、相手を傷つけることがあって、それはごめんと言えたから、今でも友達としているけど、もしあの時に私がごめんと言っていなかったら、その子は今でも悲しい思いをしていたかもしれません。なので私はいつも1日をふり返っています。ふり返ってみて、自分は今日相手を傷つけることをしてしまったのかなとか、傷つける言葉を言ったのかなとかふり返って、傷つけてしまっていることがあったら、その次の日に直接謝るようにしています。

今回2人の話を聞いて、大切やなと思ったことが何回もありました。この大切やなと思ったことを忘れずに生活を送っていきたいと思います。 4組SR

自分のことを「ふり返られるかどうか」です。

■今日の集会を通して、たくさんの意見が聞けて良かったです。発表もできて良かったです。

集会の後半あたりに吉成先生が私たちに問うたこと。私は、「学習してもなくなるのなら、いっそのこと学習しない方がいいんじゃないか…」と考えましたが、たくさんの人の発表を聞いて、「やっぱり学習した方がいいな」という考えになりました。真逆ですね。学習していく中でだんだん分かってくることもあるし、やっぱり学習していきたいという思いが強くなっていったからです。興味があると言ったら変だけど、発表したとおりの私も、「できれば自分からなくなっていくたい」んです。差別する人を「部落出身だから差別をする」とか、「結婚するのはやめて」とか、「いや、何で？」って思いますし。意味が分からないんですよ。いじめられていた身としても、差別を少なくしていきたい身としても。部落出身なだけです。たったそれだけのことで差別するんですよ。おかしいと思います。けど、そうやって教育されていたのなら、それは「これからはもうしないで」と言いたいです。言えたらいいな…。言えるようになりたい……!!!

人権についてこれからも交流会に参加していきたいと心から思いました。 4組UE

中学生集会、他のみんなも一緒に行きましょう！

■「部落出身」という言葉が、お話の中で何度も出てきました。この言葉を聞くと、うまく言えないけど、心がモヤッとなりました。シンジさんもはなさんも、強い心をもって自ら語っていたけれど、少しだけ、言葉の中に不安な気持ちが交ざっているような気がしたからです。それはきっと、今まで体験してきたことから出た気持ちだと思います。

私はこれから、差別で不安な思いをする人、涙を流す人を、少しでも減らすことのできるように、水槽に入れた水を汚す人でなく、ろ過する人になります。 5組KH

この感性が、痛いほどうれしい。

■私はこの発表会で、人権学習はやっぱりした方がいいと思いました。差別のことを知ると差別がなくなれないというのは違うと思います。正しく勉強したら、差別されていた人たちの苦しみは残るけど、新しい差別は始まらないと思います。差別をできるだけ0(ゼロ)に近づけられると思います。

私ははなさんの「無知は怖くて正しいことが分からないとすぐ違う方へ行ってしまう」という話を聞いて、本当にその通りだと思いました。親が差別をしていたら、自分も差別をしてしまうかもしれません。そのときに、正しいことを知っておけば、差別をしなくて済み、差別が減っていくと思います。

差別を0(ゼロ)にするために、多くのことを勉強しようと思いました。 6組IN

同じ「人権学習は必要」でも、その理由はそれぞれ違って、どれも納得させられます。

一つの問いにみんなが意見を出していく中で、自分の考えが右へ左へと揺さぶられ、そうしているうちに、自分なりの答えにたどり着く。その答えは人によって違うかもしれない。でもそれは、出し合わないとは分かりません。出し合って、違いが分かって、はじめて違いを越え、認め合うことができるのではないのでしょうか。だからやはり、自分なりの表現でいいから、思いを伝えることです。違いを越え、共に越えていくことです。そのために、じっくり語り合うのです。

3ヶ月後には、新たに人権作文を書きます。今回の学習も含め、この1年間で学んできたこと、気づいたこと、自身の成長を記すこととなります。今から何を書こうか、あたためておいてください。

さて、いよいよお別れとなりました。人権学習は、人を大事に思えるようになる学習。人と人とのつながりや出会いを大切に思えるようになる学習。出会いを大切にできる人は、別れも大切にできるものです。今、まわりにいるクラスメイトや先生を見渡してみてください。その光景を目にすることは、もう二度とありません。この1年、このみんなと出会えて本当に良かったと、心から思えるみなさん一人一人であってほしいと思います。

それが、すべてのはじまりなのですから。(おわり)